

# T&M通信

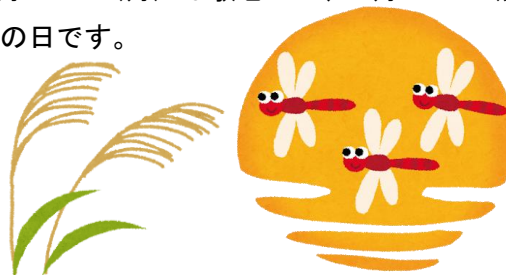
～税務と経営～

## 2020年9月号

### 今月の経営チェックポイント✓

- 秋の全国交通安全運動 9月21日（月）～9月30日（水）の10日間です。交通取締りが強化されますので、充分お気をつけ下さい。
- 9月、10月決算法人の方は、賞与等決算の対策の準備をして下さい。

□9月21日（月）は敬老の日、9月22日（火）は秋分の日です。



## 着眼点 「 ウィズコロナに活用できる補助金 」

税理士 田中 彰

日中は 40°Cを超えるなど猛暑の夏になりました。半世紀ほど前、私たちが子供の頃の夏は、クーラーやエアコンが無くて夕立後の夜は涼しく感じられたものでした。今年の猛暑が過ぎ、9月になると急に気温が下がる日も予想されます。風邪などひかれないように注意してください。加えて、コロナ禍の問題も終結が見えるどころか、数年続くことも覚悟しないとイケない状況になりました。ウィズコロナの時代に健康と経済生活をいかに両立させていくかを考えていかなければなりません。そこで、今回はこのような状況下、準備されている補助金について見てみます。

### 1.IT 導入補助金 2020 特別枠 C 類型（一般社団法人）

サービスデザイン推進協議会 HP 参照してください。

**概要** 中小企業・小規模事業者等が生産性の向上に資する IT ツール（ソフトウェア、サービス等）を導入するための事業費等の経費の一部を補助するものです。（補助率 2/3～3/4、金額 30 万円～450 万円）

対象となるのは、IT 導入補助金事務局に登録された IT 導入支援事業者及び IT ツールの中から選定したものであること。gBizID の事前登録が必要であることなど注意が必要です。

**交付申請期間**（予定）2020 年 5 月 11 日～2020 年 12 月下旬まで

**事業実施期間**（予定）交付決定後～6 ヶ月間程度※詳細日時は別途指定

### 2.働き方改革推進支援助成金テレワークコース（厚生労働省）

**概要** 時間外労働の制限その他の労働時間等の設定の改善及び仕事と生活の調和の推進のため、自宅又はサテライトオフィスにおいて就業するテレワークに取り組む中小企業事業主に対して、その実施に要した費用の一部を助成するものです。（補助率 1/2～3/4、200 万円～300 万円、1 人当たり 20 万円～40 万円）

支給対象となる取組は、テレワーク用通信機器の導入・運用や就業規則等の作成・変更、労働者に対する研修や外部専門家によるコンサルティングなどです。

**申請期限** 令和 2 年 12 月 1 日まで。「テレワークコース」については、多数の申請があったので令和 2 年 8 月

12 日で新規受付は終了。なお、働き方改革推進支援助成金（新型コロナウイルス感染症対策のためのテレワークコース）については、新たに募集を開始する予定です。

何れの助成金の活用においても導入内容にかなり厳格な規定があり、また申請期間も限定的で、募集前から計画性を持つなど資金を得るまでのハードルは高いことを覚悟する必要があると思います。

## ●第4回 働き方改革関連法 ～新型コロナウイルスは働き方改革にとっての・・・～

新型コロナウイルスにより、急速に普及しだした「リモートワーク」ですが、実は日本で初めてリモートワークが導入されたのは30年以上も昔の1984年です。育児・介護を円滑にするという考えから、ある企業が始めたことを皮切りに、今日に至るまで総務省は働き方改革の一部としてリモートワークを推奨してきました。

しかし「じゃあ明日から！」と言って始められるものでもないリモートワーク。環境整備、設備投資、社員とのコミュニケーションが取れるか、など必要なこと・不安なことも多く、なかなか一歩踏み出せない企業がほとんどでした。

ですが、新型コロナウイルスが猛威をふるい、緊急事態宣言や外出自粛などが求められる今、必要に迫られて多くの企業が一気にリモートワーク・テレワークを始めました。その様子から、鎖国をしていた日本を開国する為にやってきたペリーに例え、「新型コロナウイルスは働き方改革にとっての黒船だ」と揶揄されているようです。何だかコロナウイルスに感謝するような言い方はどうかと思いますが、確かに働き方は「改革」され、今までの関連法案も見直されるのでは、と思います。

次回から働き方改革関連法案の中身に再び触れていきますので、お付き合い頂ければと思います。

(文責：松原 礼)

## ●モノからコトへ、さらにトキ・イミへ

『モノ消費からコト消費へ』この消費行動の移行は90年代後半から現れました。これは商品やサービスを購入する時に『何に価値を感じて選択するか』ということを示しています。現在はさらに進化？細分化？し、トキ消費・イミ消費などが注目されています。それぞれが示すのは以下のようなものです。

<モノ消費>商品・サービス自体に価値を感じて選択する

<コト消費>商品・サービスの購入により得られる体験によって選択する

<トキ消費>商品・サービスの購入によりその時その場所にいることでしか得られない体験によって選択する

<イミ消費>商品・サービスに付帯する社会的・文化的な価値に共感して選択する

週末に人気のコーヒースタンドへ行ったのですが、まさにすべての消費行動を網羅していました。まずは、当然ですがコーヒーを売っている（モノ消費）。目の前で一杯ずつ丁寧にコーヒーのプロであるバリスタが淹れてくれ、心地良い雰囲気の内店で一息つくことができる（コト消費）。不定期で、ドライフラワーや絵画など様々な作家の作品を展示している（トキ消費）。また、コーヒーやスイーツはオーガニックにこだわっていたり、フェアトレード※の材料を使用したりしている（イミ消費）。

見事ですね・・・消費の流行に乗りすぎて苦手と感じる人もいるかと思いますが、私は悪いことではないように思います。小学校のころ野菜を育てて収穫する授業があったのですが、自分で育てるという体験をした大嫌いなトマトはとても美味しく感じ、それからはトマトが好きになりました。コトによって得られるものも確かにありますし、人気店となっているのは味だけでなく販売戦略によるところも大きいのではないのでしょうか。

(※フェアトレード・・・発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に取引すること。)

(文責：田中 ひとみ)